



「世代を超えて挑戦する」

心を浮き立たせてくれる桜の季節はほぼ終わり、新社会人となった方々は、職場環境に少しずつ慣れ始めた頃かと思います。自分史にとつて新しい時代の幕が開けました。この「時代」の感覚を呼び起こすイベントが4月29日に開催されます。政府の主催で、令和8年に昭和元年から起算して満100年を迎えることを記念する「昭和100年記念式典」です。この間を戦後のビジネス面で捉えると、高度経済成長やバブル経済とその後の長い停滞期があり、インターネットの登場やデジタル技術の急速な進展などで職場環境や仕事観、産業構造は大きく変遷しました。このような大きな時代の変化の中で、滋賀銀行グループが何を大切に、どう行動すべきかを、私自身改めて考えさせられています。

時代の状況は、各世代の意識も変えます。一律に語れるものではありませんが、X世代（1960年生まれ〜80年ごろ）、Y世代（81〜95年ごろ）、Z世代（96〜2009年ごろ）はそれぞれに特色があり、デジタルネイティブのα（アルファ）世代（10〜24年）は、タイムパフォーマンスや「トキ」消費への意識が高いといわれています。将来このα世代が社会と経済を担う中核になることを考えると、「自分の肌感覚と合わない」などと言っている場合ではなく、時代の変化とその先を見据え、まず「自分が変わらねば」と自戒しています。

時代の変化に対応するには、「挑戦」がキーワードになると考えていますが、その熱気を目の当たりにする機会が今年2月にありました。社会的課題の解決につながる新規事業やアイデア

を当行が表彰する「しがぎんイノベーションアワード野の花賞」の最終選考会で、滋賀県草津市に本社を構え、次世代パワー半導体を開発する大学発のスタートアップ企業が最優秀賞に選ばれました。新素材を活用した新技術を世界で初めて開発し、省エネルギー社会の実現を目指しています。また、同じ場では、企業や地域が抱える課題に対し、事業会社や学生のアイデアを融合し、新たな価値あるビジネスモデルや事業を共同で創造することを目的に、現役の大学生が斬新なビジネスアイデアを披露してくれました。会場のしがぎんホールは社会的課題の解決などにかける熱い想いに包まれ、若者の前向きな意欲と行動力を実感し、単なるアイデア出しに終わらない「実践の重要性」に改めて意を強くしました。

何事も不確実な時代に新しいことへ挑戦するには、私たち一人ひとりに、次の一手をつかむ「直感」や「気付き」といった、いわば内に宿る「野性味」が求められます。こうした感性は、誰かに与えられるものではなく、日々の仕事の中で自ら磨き上げていくものだと考えています。挑戦には迷いや揺らぎがつきものですが、小さな一歩が次の可能性を開きます。その積み重ねが、地域の企業や社会に新たな価値をもたらすと実感しており、世代を超えた一人ひとりの感性や経験、挑戦する勇気が集まって大きな力となり、これからの地域の未来を形づくっていきます。

このような認識のもと、滋賀銀行グループは、これからの地域の皆さまと共に歩み、新しい時代の変化をしなやかに捉えながら、地域の発展に貢献してまいります。